「大切な家族の輪。～必要なのは気づく事（後編）～」

移住までの準備期間2か月は、当時の会社で責任のある立場だったため、迷惑をかけて辞めないためにはギリギリの期間でした。「最後を疎かにするようでは、これからペンション経営なんてとんでもない！」その思いで必死でした。家族となかなかな顔を合わす時間もないくらいに・・・。

そして2か月後、「カッコ良く働いている姿を家族に見せて、自分を中心に家族の輪をしっかり固める！」そんな事を夢見てスタートしたペンション経営。しかし、初めての事ばかりでトラブルに次ぐトラブル。1人でできるはずもなく、妻と共に2人3脚。一日の仕事をなんとか終える頃には、既に日付が変わっている毎日でした。夢見ていたカッコ良い姿どころか、失敗して謝ったり、オロオロしたり。家族に見せたのはカッコ悪い姿ばかりでした。

そんな私達は「気持ちの余裕」などあるはずもなく、家族を大切にするどころか、いつも「後回し」。結局、大阪にいた時と同じことを繰り返していました。

そんな私達に気づいて、状況を変えてくれたのは子供達でした。私達両親の「不器用だけど一生懸命な姿」を見て、なんと、自ら「お手伝い」をしてくれるようになったのです。当時は長男が6歳、次男が4歳、長女はまだ2歳でした。もちろん小さな子供達ですから、「お手伝い」をしても時間がかかり、上手くいかない事ばかりでした。
でも「お父さん、お母さんを助けたい！」という強い気持ちで、絶対に最後まであきらめず、毎日毎日、一生懸命「お手伝い」をしてくれました。

部屋の掃除やベッドの用意、食事の支度など、小さな体で「お手伝い」をしてくれる姿がいじらしく、気持ちがうれしく、私達は元気をたくさんもらいました。

そのおかげで、私達夫婦に「気持ちの余裕」が生まれ、全てが良い方向に進み出しました。

17年たった今でも、子供達は当たり前のように「お手伝い」をしてくれます。ペンション経営を始めた当時は3人だった子供達も6人になり、今では「座っていていいから。まかせて！」と言ってくれます。これは妻にだけですけどね。

私にとっての「家族の輪」とは、「親が子供に一方的に何かを与えるのではなく、お互いに与えあい、もっと大きな力にできる輪。つまり相乗効果の輪である」と思っています。

「これからもっともっと大きな輪に育つはず。」そう信じて、今日も妻と2人で「行ってらっしゃい」と子供達を送り出します。夢を育む大山で。